

新たな勉強観尺度の作成と学業成績との関連性

西田健斗

(広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻)

問題

学業成績は、学生のメンタルヘルスに大きく影響を及ぼす(木村, 2017)。この学業成績を予測出来る要因を見つけ出すことが可能であれば、学生、生徒がよりよく学校に適応出来ることに繋がる。学業成績を予測出来る要因の候補として、学習に対する認識である学習観が存在する(鈴木, 2013)。学習観は、学校生活に特化した学習観と日常生活での学習観が存在すると考えられている(鈴木, 2013)。本研究では、学校生活における学習観を勉強観とよび、勉強観尺度の作成と勉強観が学業成績を予測出来るのかを検討した。

研究Ⅰ：勉強観尺度の作成

方法

調査対象 大学生 143 名(男性 93 名, 女性 50 名)に協力してもらい、予備調査で作成した仮尺度に答えてもらった。

結果・考察

予備調査で作成した仮尺度に対し、最尤法、バリマックス回転による因子分析を行った(Table 1)。内的整合性はクロンバックの α 係数で推定された。

Table 1 勉強観尺度の因子分析結果 (バリマックス回転後)

項目	将来・意味	興味	将来	外的強制
57. 将来何かの役に立つと思うから勉強する	.739			
29. 勉強は生活につながると思うから	.706			
3. 勉強は仕事に必要であるから	.682			
2. 勉強は将来に必要であるから	.658			
20. 興味深いことは好きだから		.811		
31. 色々なことを知りたいから		.808		
42. 理解することは楽しいから		.685		
34. 興味があることはとことん探求する性質だから		.673		
44. 好きな人が勉強しているから			.734	
52. かっこいいと思われたいから			.694	
14. 勉強すると周りが褒めてくれるから			.581	
58. 尊敬している人に近づきたいから勉強をする			.561	
28. 親が勉強しなさいと言うから				.786
22. 教師が勉強しなさいと言うから				.769
27. 自分の意志で勉強はしていない				.757
6. 自ら進んで勉強はしたくない				.505
固有値	7.66	6.94	4.58	3.51
%	12.36	23.56	30.96	36.64

因子間相関	将来・意味	興味	称賛	外的強制
将来・意味	—	.415	.203	-.088
興味		—	.331	-.284
称賛			—	.163
外的強制				—

その結果、因子 1 (将来・意味) は.8051, 因子 2 (興味) は.8256, 因子 3 (称賛) は.8018, 因子 4 (外的強制) は.8075, 全体では.7305 であった。

研究Ⅱ：勉強観尺度と成績の関連

方法

調査対象 大学生 142 名(男性 91 名, 女性 51 名)に協力してもらった。

手続き 勉強観尺度, 小学 6 年, 中高 3 年, 大学についての成績を 5 段階に自己評価してもらった。研究Ⅰで作成した勉強観と学業成績の関連性を調べるために、勉強観尺度の 4 因子を独立変数, 小中高大の学業成績をそれぞれ従属変数として重回帰分析を行った。

結果・考察

重回帰分析の結果で得られた重回帰係数と重回帰決定係数を Table 2 に示した。勉強観とどの学業成績には有意な差はみられず、勉強観と学業成績との関連性は示唆されなかった。

学習観は学習方略という個人の勉強の仕方と組み合わせて多く検討されているため(植木, 2002), 学習方略を仲介して学業成績への影響の検討も考慮すべきと考える。

Table 2 勉強観と各学業成績の重回帰分析の結果

勉強観	小学生成績	中学生成績	高校生成績	大学生成績
将来・意味	.021	.026	-.021	.104
興味	.087	-.008	.133	.049
称賛	-.141	-.136	-.184	-.110
外的強制	.129	-.054	.065	-.068
R^2	.024	.020	.036	.030

文献

- 鈴木 豪 (2013). 小・中学生の学習観とその学年間の差異—学校移行期の
変化および学習方略との関連— 教育心理学研究, 61, 17-31.
- 木村真人 (2017). 悩みを抱えていながら相談に来ない学生の理解と支援
教育心理学年報, 56, 186-201.
- 植木理恵 (2002). 高校生の学習観の構造 教育心理学研究, 50, 301-310.